

平和の反対は戦争なのか。疑問に思い、辞書で調べるとやはり平和の反対は戦争と記されていた。では、戦争しないことが平和とされる日本でも、働いても貧困から抜け出せないワーキングプアや、その人自身を見ずに住んでいる場所、生まれた場所を理由に受ける部落差別。地球上にもともとあった自然を壊してしまう

自然破壊などの、こういったたくさんの社会課題が存在している。日本は第二次世界大戦が終わってから、七六年の間戦争は起きていないにもかかわらず、様々な問題がある日本を平和と呼ぶことができるのだろうか。

他にも、戦争が終わった社会について考えてみた。武力による直接的な暴力がなくなっても戦争が終わった後には、たくさんの困難が待ち構えている。戦争によって、夫を失ったシングルマザーの貧困、破壊された環境や若者の高い失業率。もし、戦争の反対が平和だとするならば、すぐに平和な社会が訪れるはず。戦争が終わった後に訪れる社会は平和と呼ぶことができるはず。しかし、実際にはそうではないのが現状である。これらを踏まえて、「戦争がないから平和」、「平和の反対は戦争」という考え方に違和感を覚えた。

平和には二つの種類がある。たとえば、戦争やテロなどの直接的暴力だけがない状態を消極的平和、直接的暴力だけでなく、貧困や抑圧、環境破壊といった、特定できないなにかが暴力をふるっていることを構造的暴力と

## 戦争がないから平和なのか

上宮太子高等学校2年

森本陽菜

いい、それもなくなった状態を積極的平和という。この二つの平和の視点から、現在の日本を捉えたと消極的平和は実現されているが、積極的平和は実現されていないことが分かる。こうして考えると、平和の反対は戦争ではなく、平和の反対は暴力がない、直接的暴力と構造的暴力のどちらもない状態のこと、ということが出来る。

私は、インターネットで戦争に関する画像を検索してみた。すると、兵士の画像や戦場の写真、難民の写真などイメージが伝わりやすい画像が多い一方で、平和の画像を検索すると、平和の象徴であるハトやきれいな海の様子、幸せに暮らしている人々の写真など、戦争には具体的なインパクトのある画像であるのに対し、平和はどちらかというとイメージで語られがちであるなと思った。だからこそ、平和と戦争を相反する形で並べることは違うと思った。

調べてみて思ったことは、消極的平和と積極的平和をしっかりと理解して、偽善や食い違いを防ぐことが大切だと思った。SDGsという言葉が流行っている今、その一つである「平和」について真剣に考えるべきだと思った。